



2018年 8月 20日

報道機関関係者 各位

尚綱学院高等学校

「長崎・被爆体験伝承者講話」実施のお知らせ

報道関係者の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素より本学院の教育へご理解・ご協力いただき、誠にありがとうございます。

さて、本校では「社会とのつながりを意識し、他者とともに生きる姿勢を育む」ことを教育活動の柱と位置づけ、1979年より、核廃絶を願って折り鶴の吹き流しを飾る市民グループ「平和を祈る七夕・市民のつどい」の趣旨に賛同し、毎年生徒全員で折り鶴を折っております。

さらに今年度は、高校2学年の生徒が、長崎への修学旅行を予定しております。この度、「被爆体験伝承者等派遣事業」により来る8月24日（金）に修学旅行の事前学習として長崎市より被爆伝承者が派遣され、講話を聴くことになりました。

「被爆体験伝承者等派遣事業」とは、平成30年度から厚生労働省と広島市、長崎市が協力し、伝承者、朗読ボランティアを無料で派遣する事業です。戦後70年以上が経過し、被爆者の高齢化が進んでおり、唯一の戦争被爆国として、被爆者の体験や平和への思いを次世代に語り継ぐもので、今回、長崎原爆被爆体験を語り継ぐ「講話」が尚綱学院高等学校を舞台に開催する運びとなりました。

お忙しい時期とは存じますが、生徒たちが原爆の恐ろしさや平和の尊さについて学び、考える姿を是非取材頂き、報道下さいますよう宜しくお願いします。

参考：「国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館」被爆体験伝承者等派遣事業について

<https://www.peace-nagasaki.go.jp/information/1158>

尚綱学院高等学校
担当教員／白津 祈恵子
電話／022-264-5881

<「被爆体験伝承者講話」実施内容>

1. 日 時 2018年8月24日(金)6限 14:00~14:45
2. 場 所 尚綱学院高等学校 礼拝堂
3. 講演者 松尾 蘭子(まつお らんこ)氏

【交流証言者 松尾 蘭子 氏】

以前仕事を通じて交流のあった山脇佳朗さんの被爆体験を、写真スライドを使い、原爆の残酷さを語り継ぐ。現在、「長崎市永井隆記念館」に勤務。

【山脇佳朗(やまわき よしろう)さんの被爆時状況】

- ・被爆年齢 11歳
- ・被爆場所 爆心地から2.2kmの自宅
- ・体験内容 原爆が落とされた時は双子の弟と二人、縁側で米をついていた。腹が減ったので奥の茶の間に移って食卓についた時に閃光が家中に走り家を揺るがすような音が響いた。生き埋めになるかと思った。翌日になっても帰って来ない父親を迎えに工場に行くことにした。工場が爆心地のすぐ側とは知る由もなかった。工場までたどり着くまでに瓦礫の間にたくさんの人々が死んでいた。川の中にもたくさんのお体体が浮いていた。残酷な惨状を目の当たりにし、爆死した父親を兄弟3人で火葬した。足首を舐めていく炎を見つめていたら涙が溢れた。11歳の夏。